

■器具の取付方法

1 壁の仕上げによって2種類の方法で取り付けることができます。

- 中空壁の場合（建材で構成されている場合）
- ①壁にあらかじめ指定の寸法で埋込穴をあけ、その周りに野線を組み込んでください。（図1）



（図1）（単位:mm）

注）壁材質が石膏ボード等で木ねじによって固定できない場合は、埋込ボックス（別売）を用いて施工してください。

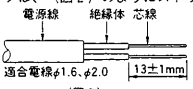
- ②器具背面のφ23電源用ノックアウトをあけて、器具内に電源線・アース線を引き込み、木ねじ（φ3.8・非細）で器具を取り付けてください。
- 注）器具上面のノックアウトは使用しないでください。取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。

●埋込ボックスを使用する場合

- ①器具取付専用の埋込ボックス（別売）を使用し、ボックス内に表示されている矢印の方向が上側になるように埋込穴に取り付けてください。
- 適合埋込ボックス
BOX2121
- ②器具背面のφ23電源用ノックアウト、埋込ボックス用ノックアウト（P=83.5mm専用）をあけて、埋込ボックス内、器具内に電源線・アース線を引き込み、小ねじ（M4・非細）で器具を取り付けてください。
- 注）器具上面のノックアウトは使用しないでください。取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。

2 ①電源線の先端をストリップして、（図2）のようにストリップしてください。

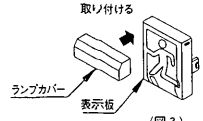
- ・電源線のストリップは、



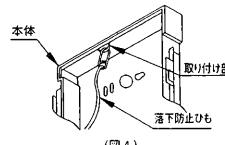
（図2）

3 ①電源線・アース線を端子台に接続してください。

- ②アース線は、D種（第三種）接地工事を施してください。取り付けに不備がありますと感電、火災および器具が正常に動作しない原因となりますので接地工事は必ず行ってください。
- 注）電源線・アース線を接続後、余分な電線は電源穴から押し戻してください。
- ③付属のランプカバーを表示板（別売）に取り付けてください。（図3）
- ④表示板の落下防止ひもを本体の落下防止ひも取り付け部に引っかけてください。（図4）
- 注）表示板は、ランプ線だけで吊り下げないでください。不点の原因となります。

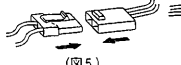


（図3）



（図4）

- ⑤ランプのコネクタを確実に接続してください。（図5）
- ⑥電源通電後、蓄電池のコネクタを確実に接続してください。（図6）

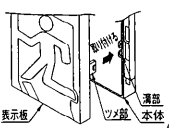


（図5）

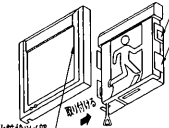


（図6）

- ⑦付属の設置年マークを認定証裏面に貼ってください。
- ⑧表示板のツメ部と本体の溝部を合わせて、リード線、点検スイッチ引きひもをはさまないように表示板を本体に取り付けてください。（図7）
- 取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。
- ⑨化粧枠のツメ部と取付金具の角穴を合わせて、化粧枠を取付金具に取り付けてください。（図8）
- 取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。

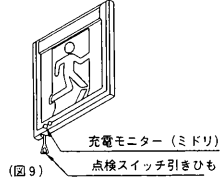


（図7）



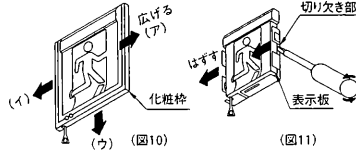
（図8）

- ⑩取り付けが終了しましたら、器具が正常に動作するか保守と点検方法を参照のうえ、充電モニターの点灯確認と点検スイッチ引きひもを引いて非常点灯の確認をしてください。（図9）

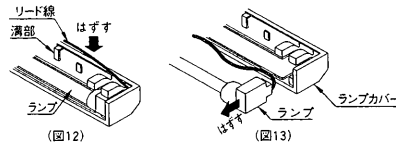


■ランプの取りはずし方法

- ①化粧枠を片側（ア）、反対側（イ）、下側（ウ）の順番で、化粧枠の中央を外側に広げながら、手前に引いてははずしてください。（図10）
- ②本体中央の切り欠き部を利用して、ドライバー等で表示板を本体からはずしてください。（図11）

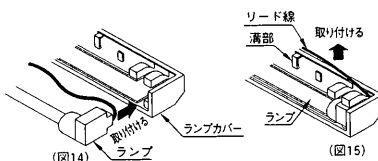


- ③蓄電池のコネクタをはずし、電源を切ってください。
- ④ランプコネクタの引っかかり部分を押しながはずしてください。
- ⑤表示板の落下防止ひもを本体からはずしてください。
- ⑥ランプカバーを表示板からはずしてください。
- ⑦ランプのリード線をランプカバーの溝部からはずしてください。（図12）
- ⑧ランプの端のリード線を持って、ランプをランプカバーからはずしてください。（図13）



■ランプの取付方法

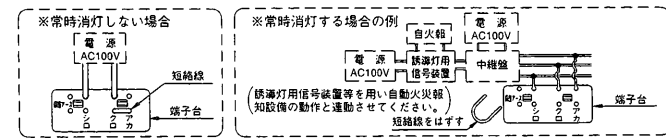
- ①ランプをランプカバーに（図14）のように取り付けてください。
- ②ランプのリード線をランプカバーの溝部に取り付けてください。（図15）



- ③ランプカバーを表示板に取り付けてください。（図3）
- ④表示板の落下防止ひもを本体の落下防止ひも取り付け部に引っかけてください。（図4）
- 注）表示板は、ランプ線だけで吊り下げないでください。不点の原因となります。
- ⑤ランプのコネクタを確実に接続してください。（図5）
- 注）本体に設けているランプ線押入の溝にランプ線を固定してください。固定しないとき正味の明るさで点灯しない場合がありますのでご注意ください。
- ⑥電源通電後、蓄電池のコネクタを確実に接続してください。（図6）
- ⑦点灯ユニットに付いているランプ交換スイッチを必ず2秒以上押ししてください。
- （赤色のランプモニターが消灯しているか確認してください。）
- ⑧表示板のツメ部と本体の溝部を合わせて、リード線、点検スイッチ引きひもをはさまないように表示板を本体に取り付けてください。（図7）
- 取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。
- ⑨化粧枠ツメ部と取付金具の角穴を合わせて、化粧枠を取付金具に取り付けてください。（図8）
- 取り付けに不備がありますと器具落下の原因となります。
- ⑩取り付けが終了しましたら、器具が正常に動作するか保守と点検方法を参照のうえ、充電モニターの点灯確認と点検スイッチ引きひもを引いて非常点灯の確認をしてください。（図9）

■配線方法

- ①器具の配線は図のように結線してください。電源回路は必ず分電盤からの専用回路とし、分電盤と器具の間には点滅スイッチを設けないでください。
- ②配線方法は原則として2線引配線です。3線引配線を行う場合には、所轄の消防局（庁）の了解を得てください。
- ③3線引配線を行う場合には、端子台に接続してある短絡線をあらかじめ取りはずして結線してください。
- ④電源線・アース線を端子台に接続してください。
- ⑤蓄電池の放電を防ぐためにコネクタをはずします。ご使用の際には電源通電後、コネクタを差し込んでください。



■モニターランプ表示内容

〔正常状態〕		〔異常状態〕	
ランプモニター（アカ）	消 灯	モニターランプ点灯状態	考 え ら れ る 原 因
充電モニター（ミドリ）	点 灯	点 灯	ランプが破損している ランプコネクタがはずれている 蓄電池の充電不足
	点 滅	点 滅	ランプ寿命 蓄電池コネクタがはずれている
充電モニター（ミドリ）	消 灯	消 灯	電源線が接続されていない 蓄電池の寿命
	点 滅	点 滅	蓄電池の充電不足 24時間以上充電した後に電源を10秒以上OFFして再投入してください。

- 注1）ランプ交換後、ランプ交換スイッチを2秒以上押ししないと正常状態に復帰しません。
- 注2）点検の際には、24時間以上充電した後、60分以上電源を遮断してください。点検の結果、充電モニターが点滅した場合は必ず蓄電池を交換してください。
- また、次の場合には点滅動作がリセットされますのでご注意ください。
- ①蓄電池をはずしたとき。
 - ②電源を10秒以上OFFして再投入したとき。
- 注3）器具取り付け後および電源遮断時に充電モニターが点滅場合があります。点滅した場合は、24時間以上充電した後、電源を10秒以上OFFして再投入してください。
- 注4）蓄電池交換の際は、通電状態で交換してください。電源遮断状態で交換すると、モニターの点滅が停止しない場合があります。

■仕様

形 名		KYH2811HA	KYH4811HA
平 常 時	電 源	交流100V 50Hzまたは60Hz	
	入力電流	0.13A	0.14A
	消費電力	6.4W	7.2W
	光 源	CF210T4ENLX1	
非 常 時	電 源	密閉形Ni-Cd蓄電池 4NR-CX-S 4.8V 2500mAh	
	光 源	CF210T4ENLX1	
質量（表示板込）		2.1kg	

（注）点灯直後の入力電流、消費電力は若干高くなります。

■安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになる方や他人への危害と財産の損傷を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

工事店様へ

施工上のご注意

⚠ 警告		この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。	
器具の取り付けは、重量の耐えるところに、本体表示並びに取扱説明書の「器具の取付方法」に従って行ってください。取り付けに不備がありますと器具落下、火災の原因となります。	！ 取り付け重量	器具の取り付けには方向性があります。本体表示並びに取扱説明書の「器具の取付方法」に従って行ってください。指定方向以外の取り付けを行うと器具落下、感電、火災の原因となります。	この器具は、腐食性ガス雰囲気場所には使用できません。そのまま使用しますと、変質、変色、絶縁不良、器具落下の原因となります。
	！ 方向性	この器具は、防湿形ではありませんので、湯気、湿気の多い場所には使用できません。湿気の侵入による絶縁不良、感電の原因となります。	この器具は、振動の激しい場所には使用できません。そのまま使用しますと、器具落下の原因となります。
電源線接続の際は、取扱説明書の「器具の取付方法」に従って行ってください。接続が不完全な場合は、接続不良による感電、火災の原因となります。	！ 改造	アース工事は、電気設備の技術基準に従い確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
	！ 電源線接続	アース工事は、電気設備の技術基準に従い確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
⚠ 注意		この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物損の発生が想定される内容を示します。	
この器具は、周囲温度5℃～35℃以外では使用しないでください。高温で使用しますと火災の原因となります。	！ 温度	表示された電源電圧（AC100V±6％）以外で使用しないでください。間違えて使用しますとランプ、点灯装置の短寿命、火災の原因となります。	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
	！ 電源電圧	表示された電源電圧（AC100V±6％）以外で使用しないでください。間違えて使用しますとランプ、点灯装置の短寿命、火災の原因となります。	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
		！ 湿度	この器具は、振動の激しい場所には使用できません。そのまま使用しますと、器具落下の原因となります。
		！ 振動の激しい場所	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
		！ アース工事	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。
		！ 風	この器具は、屋内専用です。屋外で間違えて使用しますと、湿気、水気の浸入により、絶縁不良、感電の原因となります。

●自己点検開始方法

※自己点検モードに切り替える前に次の項目を確認してください。

下記①～③を満たさない場合は自己点検モードには切り替わりません。

条件を満たしている場合は規定時間以上の電源遮断時にも蓄電池の寿命を判定します。

- ①充電モニター(緑)が点灯している。(蓄電池の充電がされている)
- ②ランプモニター(赤)が消灯している。(ランプが正常に接続されている)
- ③操作前に24時間以上の充電がされている。

▽LEDモニター表示図式例

点灯	
消灯	
点滅	

スタンバイモードとは...	電源通電時に点検スイッチを5秒押し続けた後のLEDモニター(赤・緑)が同時点滅している状態です。5秒間継続します。
自己点検モードとは...	スタンバイモード(LEDモニター同時点滅)時に再度点検スイッチを押すと自己点検モードに入ります。点検スイッチから手を離しても非常点灯(LEDモニター消灯)を継続している状態です。

	作業内容	冷陰極ランプ	LEDモニター表示		備考
			充電(緑)	ランプ(赤)	
1	点検スイッチを5秒間押し続けてください。 (スタンバイモードに移行します。)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	点検スイッチを押すと、充電モニターは消灯しますが、5秒押し続けると充電モニターとランプモニターが同時に点滅を開始し、スタンバイモードに入ったことをお知らせします。
2	スタンバイモードに入ったら点検スイッチから手を離してください。 (スイッチを押したままの状態) (スイッチを解除した状態)	非常点灯 常用点灯	点滅 ●	点滅 ●	スタンバイモードは約5秒間です。 自己点検モードに移行する前にスタンバイモードが解除された場合は1の操作からやり直してください。 スイッチを押したまま5秒経過した場合もスタンバイモードが解除されます。
3	スタンバイモードの時に再度点検スイッチを押します。(自己点検開始)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	
4	規定時間経過、又は蓄電池寿命を判定すると自動的に復帰します。復帰後充電モニターを確認してください。	常用点灯	点灯	消灯 ●	充電モニター(緑)が点滅している場合は蓄電池容量が減少しています。新しいものと交換してください。

※次の場合は自己点検モードが解除されます。この場合は正しい判定ができませんので、蓄電池の寿命判定は必ず自動的に復帰した後に充電モニターを確認してください。

- ・自己点検モードのときに点検スイッチを押した場合。
- ・自己点検モードのときに停電(電源遮断)が発生した場合。

自己点検が動作しない場合は・・・

自己点検が始まらない

